

映画『レオニー』をつくりながら考えた

# 異邦人として生きるということ

マイノリティ

映画『レオニー』上映会 & 松井久子監督講演会

12月3日(土) 13:30～  
ハイブリッド形式



ご参加の方は、「参加申込フォーム (<https://forms.gle/2TphNBgaEa8yGhW89>)」

よりお申込み下さい。対面、オンラインどちらのご参加でも申し込みは必須となります。

▲参加申込フォーム

対面会場：西 5-302

オンライン会場：ZOOMを使用。お申込み後にメールにて URL をお知らせします。



松井久子監督

日本人の父とアメリカ人の母を持つ彫刻家のイサム・ノグチは、世界的な名声を得ながら、終生日米両国で異邦人の悲哀を生きた芸術家でした。映画『レオニー』の主人公であるイサムの母親レオニー・ギルモアもアメリカ・インディアンの血を引くマイノリティであり、100年以上も前に我が子を遠い異国日本で育てた女性です。そしてそんなレオニーの生き様に魅かれて映画をつくった私もまた、日本の映画界では女性監督という異邦人であり偉大な異国アメリカでの映画づくりに挑戦したという点で、レオニーの人生に自分が重なります。当日は一緒に映画を観て頂きながら、女性として生きることの「困難さ」とそこで獲得した「強さ」について、共に考えて頂く機会になればと願っています。

松井久子\*映画監督、作家

1946年東京出身 早稲田大学第一文学部演劇科卒。1998年『ユキエ』で映画監督デビュー。2002年『折り梅』、2010年『レオニー』を発表の後、ドキュメンタリー映画『何を怖れる フェミニズムを生きた女たち』、『不思議なクニの憲法』を公開。2022年11月、小説『最後のひと』を上梓。

